

電気こたつの事故

事故の概要

【事例①】電気こたつの中間スイッチ付近から出火する火災が発生し、周辺が焼けた。

【事例②】使用中の電気こたつから発煙し、こたつふとんが焦げた。

事故の原因

【事例①】電源コードを引っ張ったり折り曲げたりしていたため、中間スイッチの根元部が半断線状態になり、コードがショートして発火したものです。

【事例②】やぐらの中にふとんを押しこんで使用したため、ヒーターの保護カバーに接触して、ふとんが焦げて発煙したものです。

【NITEの再現実験】



座いすとともに押し込まれた掛けふとんから発火しました

温風ダクトの事故

【NITEの再現実験】



ダクト口を温風暖房機に近づけ過ぎたため(右)に変形したこたつ

温風ダクトの排風口からの熱風がこたつの脚部等にあたり、溶融・変形する等の事故が発生しています。



やけどや火災に至る可能性がありますので、取り扱いには十分注意してください。



事故防止のために

- ◆電源コードを折り曲げたり、ねじったりしないでください。
- ◆電源コードをこたつの脚などで踏まないでください。
- ◆電気こたつの中で衣類などを乾かさないうでください。
- ◆座いすや座ふとん、上掛けなどが、ヒーターユニットに近づき過ぎないようにしてください。
- ◆改造したり、自分で修理をしないでください。

